CHAIN

No. 16

An Organ of Fib. Chem. Dept. July '63

21. Mai 1963.

Sehr geehrter Herr Kanai!

Haben Sie besten Dank für Ihren Brief vom 18. April ds. Js. in den Sie mir von Ihren und des Institutes Arbeiten auf dem Gebiet für makromolekulare Chemie berichten. Dazu wünsche ich Ihnen persönlich alles Gute, ebenso den 160 Studenten die sich in dem Institut auf dem Gebiet der makromolekularen Chemie beschaftigen.

Erfolgreiche Arbeit für die makromolekulare Chemie!

Mit freundlichen Grüssen!

H Staudinger

目　次

Erfolgreiche Arbeit für die makromolekulare Chemie!　H. Staudinger

貴妃幻想　相宅省吾　2

僕の今迄と今考えること　1回生　佐藤光則　4

懐疑のすゝめ　4回生　竹西壮一郎　7

「お前」　3回生　斉藤博　9

生協とは何か　3回生　山下清吾　14

サラリーマンの1日　市村晃　18

大学の講義　4回生　有松利雄　22

この学校を紹介してくれた人　1回生　定田美樹子　24

社会人二年生として　荒瀬治夫　26

仮説進化論　3回生　斉藤博　29

山の友を偲ぶ　3回生　坂本義章　32

才六回，思想，隠想，幻想　4回生　金田洋二　34

研究室紹介

貴志研究室　38

町田研究室　39

岩崎研究室　40

相宅研究室　42

編集後記

貴妃幻想

相宅　省吾

学校の教師の生活も拾余年と続けて行くと一つのcycleが出来上り，あまり考えることも少なくなって来る。しかし年に一度此のcycleの切れる時がある。それは卒業生を送り出し，新入生を迎える間の早春の候である。此の時期には自由な空想を楽しみ時には漂白の旅に出る事も多かった。

ある年の早春の一日、私は実験室で何することもなく座っていると，日射は深く射し込み花の香は漂よって来るようであった。甘い香に誘われて花園の村(宇多野附近)の方に出かけて行った。こぶしの白い花は薄紫の色を花芯に染め、連翹は其の黄金の小花を首飾のように連ね，色とりどりの椿は濃い緑の葉の間に咲き誇っていた。野辺には"おゝいぬふぐり"の青紫の小花が星屑の様に咲き乱れており，紅梅、白梅の香があたりをやわらかく包んでいた。此の花園に腰を下してうつらうつらと白昼の夢を見ていた。

素早，遙かに過ぎ去った青春の頃友人達と白川の流れにそった古い旅亭で美しい舞子達と春の宴が催された。仇引の音に合わせて歌われる京の春の歌，金屏風の前で舞い踊る祇園の舞、春の夜の更け行くのを惜んで舞子達の住む館を訪ねた。白粉(おしろい)を落して，洋装の素顔に戻った少女達と踏むワルツの曲は加茂川の流れに消えて行った。

遙かに過ぎ去った青春の思出の地を見ようと附近の花を手折り車を走らせた。街のたゝずまいは同じであるが，二十年の歳月は家も人も昇華し消え去っている事は考えるまでもないことであった。花束を持って、満たされぬ心を抱いて，私は今熊野の坂を上って行った。坂を登りつめると清浄なるお寺（泉湧寺）の仙境に出た。

あはれ花びらながれ
おみなごに花びらながれ
おみなごしめやかに語らひあゆみ
うららかな葦音(あしおと)空にながれ
をりふしに瞳をあげて
翳(かげ)りなきみ寺の春をすぎゆくなり
み寺の蓑(いらか)みどりにうるおい

三好達治の詩を口ずさみながら、美しい建物を拝観し，掃き清められた玉砂利の道は月輪陵に続いていた。槙の木は生い茂り，鮮苔は青い毛織を敷きつめていた。

道のはずれの小さな御堂の中へ一人の老婆に導かれて入った。正面の厨子の中には此の世のものとも思えぬ美女が半眼を開いて立っている。頭に載いた宝冠は翡翠、赤珊瑚、白珊瑚、手には極楽の花の宝想華、黄金の首飾，眉間の白毫は上より照される蛍光灯の光で気高く輝いていた。

此の聖観音像はかの唐の玄宗皇帝が楊貴妃しのんでありし日の御姿をその侍の等身座像にかたどって造られたものである。この貴い御像が縁あって宗の時代に我国に招来され，此の洋域に長く祕仏として伝わって来たものである。

私は今迄たづさえて来た早春の花を捧げて白楽天の詩（長恨歌）を思出していた。

雲鬢花顔金歩搖
芙蓉の帳暖かにして春宵を渡る
春宵は短きに苦しみ，日高けて起く

風は仙袂を吹いて，飄颻として挙がり
猶霓裳羽衣の舞に似たり
玉容寂寞　涙闌干
梨花一枝　春，雨を帯ぶ

高木正一、注（中国詩人選集・白居易・岩波）

香煙の漂う茫漠の堂の中に私は黙然と座っていた。灯は消されると花の顔は尊い御仏の姿になって悩める衆生を導く菩薩であった。

私は洗われた気持になり夕闇せまる月の輪の道を降りて行った。眼の下には東寺の五重の塔や，京洛の街が千年の厂史を祕めてもやの中に浮んでいた。

注1 此の観音像は楊貴妃観音と云われ広隆寺の弥勒菩薩と共に京都否我国でも最も美しい仏像である。

注2 楊貴妃については井上靖が目下婦人公論に連載している。

僕の今迄と今考えること

1回生 佐藤光則（大阪学芸大付属高校出身）

先日上級生の方から1回生からもChainに寄稿してほしいとの意向を聞きましたので生硬な文章で恐縮ですが、ここを志望した動機，入学して思った事又このごろ考えることなどを書いてみます。（思い浮ぶ順に列記しますので文の一貫性に欠けるかもしれませんが御容赦下さい。）まずここを志望した事情ですが、これについては僕は他の方と少し違うところがあるかもしれません。というのは僕は東京の私立K大学を中退してこちらへ来ました。K大を中退して再び受験勉強を始めて、文科系から理工系へ転向することには周囲の者は概して反対でした。僕としても特に理数系の科目が得意なわけでもなく、自分から転向したいと言い出し、又それが可能だと強く主張して家の者をやっと説得した一方，この約7ケ月の受験勉強にはいつも不安と焦燥がつきまといました。大学在学中に多くの受験必要事項は忘却のかなたに消へ去り（人間というものはその必要から離れるといかに早く簡単に物を忘れてしまうかということを痛感させられました。但しこの場合は僕のお脳の弱さを考慮に入れる必要があるかもしれませんが。）又一度大学生活をしてたるんだ心は容易に引きしまりませんでした。一方自分から転向すると言い出した以上責任も有るので心にはいつも負担を背おわされていた事は事実で，ともかく今度の受験勉強は相当苦しいものでした。ちなみに当時の日記を見ますと.

○月○日。晴．朝から昼までかかって物理三題しか解けない。気晴らしに近くの浜寺公園へ散歩にゆく．つい近年まで僕達が泳いでいたここの海辺も臨海工業地帯の造成でまたたくまに埋められてしまって海面はもはや見ることが出来ない。以前の様にぼんやり海を眺められなくなったのは寂しい。でも昨日の雨で公園の草や木の緑が鮮やかなのは目の保養になった。ちょっと金魚すくいをやってみる。どう云うわけか大変よくすくえて、回りの小さな子供達に秘訣を教へてくれと聞かれたが、僕がそんなものを知っている訳がない。帰り道で考へてみる。物理は解けない。金魚はよくすくえる。何となく滑稽な取り合せに思われて一人苦笑する。その後一種のわびしさに襲われる。（先の組合せが逆だったらなあ、という潜在意識がそうさせるのだろう。）帰ってからチャイコフスキーのピアノコンチェルトを聞く……後略。

さて話がだいぶ横道にそれましたが本論に戻って僕がなぜ先述の如く強引に転向を決意したかというとそれは次の様な理由からです。

①所謂ホワイトカラー族としてあの無味乾燥なビルの中で机と人と書類に囲まれて一生を送るのかと思うとどうも非社交的な自分には耐へられそうにない様に思われたこと。(学問的には経済学も興味深いところも多いと思いますが…。)それに転向するなら今しかチャンスがないと思われたこと。

②大学に於る多少の読書でなんといっても日本は工業で立国せねば立っ瀬がないとつくづく感じ,それならその方面で努力する事の方が世の為にもなり(これは少し古い言葉だが),自分としても意義のある一生を送れることになるのではないかと思ったこと。工業の重要性について,受験誌などで御存知の国文学者小西甚一氏も次の如く極言しています。"この貧弱極まる天然資源で1億の人間が人並の生活をしてゆくためには,どうしても原料を輸入し製品を輸出するほかない。ぜったいそれ以外にはない。ということは工業が私達の生活を支える屋台骨だという事実を意味する。だからこれからの若い優秀な人達はどしどし理工科方面に進出してくれなくては困る。そちらに向くすぐれた人材が出なくなった時はすなわち日本が衰亡への途をふみ出した時である。…後略。(但しこのような一文によってのみ理工系への転向を決意したわけではない。)この説は表現はすこしオーバーかもしれませんが確かに真実を言っていると思います。我々はこの説にある如く,今やっている学問の重要性を自覚し又それに対してある程度のプライドを持つことは,ひいては勉強の励みにもなり悪いことではないでしょう。要するに事務系よりも技術系の者の方が自分の存在意義を実感として感じることが出来るのではないではないでしょうか。(K大学の先輩で彼は大学卒後,某一流銀行に就職したのですが,事務系サラリーマンとしての日々が疑問に思われる様になり,そこを退職して受験勉強を始め某大学の工学部に入り直したという例もあります。)さらに僕の浅薄な予測によれば技術系の中でも将来特に中心となるものは,「鉄」と「化学」だと思われます。さらに話が少し裕っぽくなりますが,その化学の鉄の内でも技術系がより尊重されるのは化学です。というわけで我々が今から学ばんとする繊維化学は色々と妙味もあるし,やりがいもある分野だと言っても決して差障りありますまい。

さてこの辺で話を少し変へてこの学校へ入学して感じたことを少し書いてみます。ともかく前の学校とはあらゆる点で対照的です。(東京と京都,私立と国立,文科系学部と理工系学部,ややハデな校風とやや地味な校風,少人

数と多人数等々ですが僕としては全体としてこちらの方が性に合っている様なので転向して来た意味があったと思っています。）さてそれでは入学して感じた事の幾つかを具体的に書いてみますと①学生の数が少なすぎて少々寂しい感じがします。出来るなら工芸学部と1つのキャンパスに統合できたら色々な面で学生生活の面白味が増えると思います。（話によるとこういう案が考えられてはいるそうです。それが早く実現されたらと願っています。）
②ここの文化クラブ運動クラブともリクリエーション的意味を重視していることは大変結構だと思いました。③学校新聞の有り方はちょっと納得出来ない所があります。④学生の皆さんが真面目で良く勉強しそうなので（但し二回生以上については保証の限りではなさそうですが…。）小生の如き遊び好き（勉強も好きだが遊ぶ方がもっと好きだというに過ぎない。こんなのをヘリクツという。）は早くも前途が思いやられてしかたありません。次に今後4年間（但し事情？によってはもっと延びることもある。）の大学生活について。
①本学は工科系の単科大学なので知らず知らず学生があるタイプにはまってしまう可能性があると思います。それで僕としては出来るだけ色々な大学の色々な学部の人達と話し合う機会を持ちたいと思っています。人間の"物の見方"、考え方、"発想法"などは本当に多岐に亘っており、それらをお互いに交換することは大変有益なことです。②何か大学で学ぶ以外のものを、一つでも良いから身につけたいこと。③本当にそれに没入出来る趣味（スポーツ、絵画音楽etc.）を持っていることは人生の色々なピンチに遭遇した時に必ず役に立つでしょう。ですからその様な趣味を大学生活を通して見出しておくことも意味のあることでしょう。（僕の場合それはどうも『音楽をきくこと』の様です。例へばベートーベンのピアノコンチェルト『皇帝』などはノイローゼ気味になった僕を幾度も力ずけてくれました。シューベルトの『冬の旅』ヴィヴァルディーの『四季』なども僕の大好きな曲です。）
以上全く一貫性もなく稚拙な文章で誌上を汚してしまった感があるので最後にこれを郭清する意味も兼ねて僕の大好きな芭蕉の句を提して稿を終へること許して頂きます。

——大津に至る道山路を越へて——

○山路きて，何やらゆかし　すみれ草。　　芭蕉

（忙しい毎日に追われている現代人も時にはこの句に於る芭蕉の境地に浸る位の心の余裕はもっていたいものです。）

懐疑のすゝめ

4回生　竹西壮一郎

懐疑は美徳である。少なくとも人類社会の進歩発展が人類に課せられた最高の課題であり，人格の完成というものが個人の至高の目標であるならば，だが懐疑はペシミスムでもなければオプティミズムでもない。独断や自己満足はできるだけ排除されねばならない。懐疑に必要なものはものにとらわれない自由な心である。現実の事物，現象をありのまま見なければならない。それが真理に一歩でも近ずく唯一の方法である。ところが現在私達のまわりにあるものはきわめて独断的なものが多い。意識的にせよ無意識にせよ，現代では独断的にならざるをえない。独断的で調子のいいキャッチフレーズが私達をとりまいている，これらの中から少しでもいいものを選び出すためにははたしてこのキャッチフレーズはどの程度本当なのだろうか」と疑う心がなければならない。

「夢のせんい」ということばはキャッチフレーズとに単純明快でひびきのよいすぐれたものである。ところでこの「夢のせんい」といわれているものは本当に「夢のせんい」といえるだろうか。すぐれたせんいであることはまちがいない。しかし「夢のせんい」ということばをまともに考えるならば少し不適当だといわざるをえない。現代ではせんいの用途は想像以上に広い。タイヤコード，漁網，工業用沪布，ホースなどから寝具，衣類とその用途は千差万別である。そしてタイヤコード用として要求される性質と下着用のせんいに要求される性質はおのずから異ってくる。そしてこれらの性質をすべて満足させるせんいを作る必要はない。ナランは衣類用，ビロンは工業用特にホース類などとできるだけその用途に応じて使い分けられるようにするのが私達の研究の目的である。作業服にはビニロンを着て，通勤用にはテトロン，レジャーやおしゃれ用にはウールという風に使い分けた方が，朝から夜まで，頭のてっぺんからつま先までパイレンとなるよりよほど変化と潤いに豊んでいて，生活は楽しいものになるだろう。しかし現代の企業はそんなことを望んでいないらしい。

また複雑な経済的，文化的な原因を考えるよりも社会の混乱は「ブルジョアが悪いんだ」とか「共産主義者のせいだ」という方が単純で訴える力が強

い。これをタグロイド思考というそうだ。これは心理的にいえば「すばらしく発達した精神の持主でも，ある所までゆくと，その限度以上に複雑なものは，つかむことができないという点に達する。ところが大多数の人は，この限度にすぐ達してしまう。しかも，およそ，その限度に達しないうちに怠け心が生じて，とても消化できない精神的食物をまるのみにしてしまおうとする。」ということになるらしい。　とにかくむずかしくてわからない多くのものを攻撃するよりも，一つのものを攻撃する方がやさしいということだ。個人にせよ社会にせよ，その状態を決める因子はひとつではなく，きわめて多くの因子が互いにからまりあっている。行きづまりを打開するためにはこれを解きほぐさなければならない。しかしそれでは国民大衆をひっぱってゆけない。というわけで単純化した勇ましいキャッチフレーズをどんどん作る。しかしこのキャッチフレーズをうのみにしてはいけない。うのみにすることは思考の放棄である．条件の複雑な社会科学では，とかく行すぎた単純化が行なわれ，不当な結論が出される。その結論が事実に合わなければ，無理にねじまげて合わせようとする。あるいは的はずれの攻撃をする。とても飛べないような飛行機を作っておいて，この飛行機が飛ばないのはパイロットが悪いのだという風な論議の右にも左にも多すぎはしないだろうか。

こんなことは自然科学の世界にもないことではない．長老学者が新進学者の新理論をかたくなに認めようとしないなどといううわさはよくきくことである。しかし実験によって証明されたならばこれは認めざるをえない。ところが社会科学では精密な実験は不可能である．そしてそれをよいことに宗教的な色彩さえ帯びることがある．そうなれば事実に価値を与えようとはしない。そこに救いのなさがある。

結局人間はめんどうでも個人個人で考えねばならない。他から与えられたものをみのみにして，その後についてゆくことは確かに楽である。しかしそれでは進歩はない。カミュは「ペスト」で人間の知っていることはごくわずかである。だから人間は常に考え，そして考えうる最善を尽さねばならないし，またそうするよりしかたがないという意味のことを書いている。これこそすべての人に与えられた課題であり，生き方であると思う。人間の価値は考えることにある。そして既成の概念や理論をそのままうのみにすることは思考の放棄であり，ひいては人間の尊厳の放棄にもつながる。そして考えることの準備段階として疑うことがどうしても必要となる。

『お　前』

3回生　斉藤　博

楽しい旅路
人生の山と谷
自分勝手な気侭な人間
マルキシズムを忌み嫌って
　デイト代を稼ぐ不思議な奴。
時間の奴隷だと自称して
　自分の時間を捜している。
女の子はスカンと口で言って
　心は女の子の笑顔で春を呼んでいる。
桜の花も嵐山の土堤を
　つつみ込むだろう
　白いフロシキばかり頭の中に在って。
試験と桜と
　何んとこいつはうまいとり合わせだ。
苦しい心の中
　寂しい目の色
優しいほほえみ
　カールした髪の毛
　　今日の女は学生だった。
試験と寒風
　こいつは何んと悲しいアベックだ。
カントもシェリングも
　皆んな馬鹿だと非難して
　お前の方がもっと馬鹿だと
　　思ってみたのか。
異端者め、バカ野郎め
　もっともっと謙虚に成れと
そっとささやく口もとは
　お前が偽善者でなかった口か。
心の中はいつもさびれて

自分を自分でさげすんで
清らかさを装おうとして
泥を握っているこの手は何んだ。
お前の体には春が来たのか
その小さな体にも春があるのか。
語学に強いと自称して
一体単語をいくつ
御存知なのかね。
外国人の顔に単語でも書いてあればね。
友達が欲しい
友達が欲しい
この言葉は何を言っているのか。
お前は自分を知りすぎて
自分で自分を隠してはいないか。
盲め。愚劣な奴め。
君の人生行路の終点はどこか
こんな問を持ち得るお前か。
春だ。春だ。
人が楽しいという春だ。
お前には冬しかないから分かるまい。
淋しい人間
悲しい人間
面白い人間
複雑な人間
お前はなんとややこしい奴だ。
生活の苦しさも知らず
大人になることも知らない奴よ。
時計と帳面
化学と試験管
ドイツ語とフランス語
女子大生と英語
沢山の恋人を持っても
お前の望むものは得られたんではない。
無責任な人間の言葉は

タックルの激しさ
無教養のおろかな奴等のうわさは
スクラムの苦しさ
試験と新聞
こいつはなんとやっかいなカップルだ
黒いショールで
頭をつつんだ今日の学生
大きな目でお前の
背広に穴をあけた
熱っぽい情婦みたいに
お前の視線を求めて再三、再四
それを知ってスマしていたとは
お前はなんといたずら坊主だ。
そっと抱いてやりたい可愛いい奴なのに
理性とか　ブレーキとか
うるさいものを持っているお前は
案外幸福だ。
そっとキッスしてやりたい
かわいい奴だったのに。
自分の阿呆を知り抜いて
自分の能力を信ずるなんて
気違いのまねはするな。
おお春だ　春だ、
楽しい冬の生みだした春だ
お前は今　苦しむ事を楽しんでいる。
お前という奴はけったいな奴だ。
苦しい自分の心境をよくよく知っているなんて
頭の隈にでも在った言葉か
知らない自分に身を委ねるように
知らない女の子の視線を浴びるように
神戸と芦屋で見た六甲は
姿を変えていたか。
どこの女子学生
どこのビジネスガール

　　どこのお嬢さん
子供の様なお前を
　不思議そうに見ている。
円山公園も嵐山も
　阪急沿線もやがて
阿呆や馬鹿達でうずまるだろうに
　お前の心は何でうずまるのだろう。
どんより曇ったような
　青空に日がさせば
ひばりは、はばたきの用意をするだろうに
　お前は飛んで行く空を持っているのか。
お前は自分の心全部をさらけ出す。
　ガールフレンドさえないだろう。
朗らかなお前と
　うつとうしいお前
　石ころを蹴りとばして
　うさの晴れるお前であればいいが。
モン・ナミイ
　こんな言葉のどこが魅力か
セーヌの濁水
　ガロンヌの腐ったブドウ
　　シャンパーニュのいやなにおい
ボンジュール　お嬢さん
　メルシー　お嬢さん
マドモアゼルのタップ踏むような
　こんな旋律が
お前の心をどう動かすのだ
お前の今の生活はあまりに忙しすぎる
　それに甘んじて今の態度が最上か
あまり自分をこまらせないで
　あまり自分をいじめないで
もう少しいたわっておやり
お前は自分の
　意外に恐しい力に

驚きの目覚めを感じている。
お前は一体全体
　どれだけの力があって
　　どれだけの力しかない奴だ
意志の弱い男
　いくじのない男
　　いつも淋しそうな男
お前はあまり自分のいる場所を
　捜しすぎはせぬか，
お前の好きなものは何だ
　神の優しい御声か
　勉強か　金か　女の子か
お前は何でも欲しいようだな
　何んと欲ばりのお前だろう
あまり何もかもを考えず
あいつがお前を
　呼んでいる夢でもみて
腹をたてるんだ
　早く寝ろよ　もう三時だ。

もう一度

八回生　ふらふーぷ

こんなに大声で叫んでいるのに
　あんなにやさしかったあなたが
あなたはもう知らん顔
　凍りつくような静けさの中で
こんなに大声で呼んでいるのに
　たゞ心に焼きついた
振り返りもせずに
　白い顔
もう一度
　こんどこそは
もう一度

⊙生協とは何か⊙

3回生　山下清吾

我々が特によく利用するが割に無関心なのは協同組合であろう。組合加入率がほぼ100%で他大学のそれと比べて見てはるかに上回っているのに何故だろうか。恐らく，知らないからまたどうでもいいからないのだろうと思う。しかし，このような組合員の態度につけこみ，教育すべき理事会のいいかげんな活動に原因があると思う。

私は最近，一身上の都合により理事職を辞任したが理事になってから"生協"について学び知った事，また我々の協同組合がどのように動いているか知る限りの事を書き組合員の諸氏に知ってもらおうと思う。そして，"生協"とはどんなものか，我々の協同組合がどんな状態か分ってもらえればそれでいいのだ。ただ何分不勉強で間違っている事を書くかもしれないが，その時は指摘して頂きたい。又繊維学部協同組合についてはあるいは理事会への攻撃になるかも分らないが，理事の職務を十分に果さなかった私自身への攻撃として受取って頂きたい。

"生協"とは何か

生協，詳しくは消費生活協同組合（生活協同組合，消費生活協同組合連合会，生活協同組合連合会とも言う）とは一口に言って"組合員の生活を徹底的に守る組織"である。すなわち経済的に弱少な我々が我々の手であらゆる事を民主的に行って，我々の生活を守っていこうとする組織である。この事は消費生活協同組合法（昭和23年10月1日施行）にも（"国民の自発的な生活協同組織の発達を図り，もって国民生活の安定と生活文化の向上を期する"と）明記されてあるこの生協というものの基本的理念は世界各国共通で次のようなものである。

(1) 政治及び宗教に中立であること。
(2) 組合員を教育すること。
(3) 組合の資金は寄付を排し組合員自身の払い込みにより，これを造成すること。
(4) 組合の決議は出資額，性別によらず一人一票とすること。
(5) 組合員の持分は，他人に譲渡できないこと。
(6) 組合の利益は購入高に比例して組合員に割戻すこと。

(7) 販売は市価により，現金ですること。

(8) 品質の優良なものを正確な量目で売却すること。

これらの原則は生協法にも略採用されており，この法律に規定されている原則は大別すると本質的原則と運営上の原則に分けられている。それらを説明すると次のようになる。

A 本質的原則

(1) 人的結合の原則

生協は一定の地域又は職域による人と人との結合でなければならない。すなわち，経済的弱者たちの人的結合で株式会社のような資本と資本の結合ではない。

(2) 相互相織の原則

生協は組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることのみを目的としなければならず，組合員のみに最大の奉仕をするのが義務である。従って組合員以外の利用は原則として禁止されている。

(3) 公開性の原則

生協は組合員が任意に加入し又脱退することができるものでなければならず，従って生協は組合員の数を制限できないし，加入を拒んだり，加入に際し差別扱いをすることができない。勿論，労働組合とか同業組合のように加入を強制することはできない。ただ脱退の折は一定の予告期間をおかねばならない。

(4) 一人一票主義の原則

生協に於ては，組合員の議決権及び選挙権は出資口数の多少にかかわらず，平等でなければならない。これは利益追求の株式会社に於る一株一票の議決主義と異る最大の点である。

(5) 利益高割戻しの原則

生協がその剰余金を割戻すときは，組合員の利用高に応じて割戻さなければならない。これは営利法人の利益配当とその性質を異にし，生協が市価主義又は適正価格主義をとる結果当然生ずるものである。しかし組合員の利用高を明確に把めない場合が多いので，例外的に出資額に対する割戻しが認められている。その場合割戻し率は年1割をこえてはならないことになっている。

B 運営上の原則

(1) 政治的中立の原則

政治に対する中立の原則は，特定の政党に偏しそのため，生協本来の目

的遂行が阻害されるようなことがあってはならないので，生協の基本的理念ともなっている。

(2) 最大奉仕の原則

組合員に対する奉仕は、生協運営の最高理念であり，剰余金を割戻し，利益を生協内部に止めないところに営利会社の事業経営との相異がある。

(3) 教育尊重の原則

教育尊重は、生協発生以来の伝統である。生協は組合員及び組合従業員に生協の理想を知らせ，益々生協に忠実にさせねばならない。生協運動の発展の為にはよき組合員，良き従業員を必要とするからである。生協法に於ては，生協事業の一つとして教育事業を規定するばかりでなく，この事業のために剰余金から一定の繰越金をするよう生協に義務ずけている。

生協はだいたい以上のような原則の上にそれぞれの事情に応じた活動を行なうのである。我々の協同組合について述べる時言うが，法的に見て生協でない繊維学部協同組合についても以上の原則は，あてはまるべきである。

〝法的に見た生協〟

生協が法律によって規制されていることは，今述べた原則によって分ると思うが，その法的性格は，生協法に基く特別法人である。生協は組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることを目的とする法人であるから，文化的経済的団体であるが組合員から与えられた私の目的のために存在する法人であって，公法人ではないが私法人に属するものである。また，生協は，組合員総会が最高機関である社団法人であり，一定の目的に集められた財産を基礎とする財団法人ではない。生協は，組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることによって結果的に公共の福祉に貢献することにはなるが，直接に積極的には公益となるべき事業を目的としていないから，公益的性格を有するものと言うことは出来るが，民法の社団法人の如き公益法人ではない。と言って，勿論営利法人ではない。生協は剰余金の割戻しを本来の目的として事業を行うものではないからである。剰余金の割戻しは，出資金に対する利息あるいは，取扱い物品の購入高に応じて割戻す性質を有するにすぎないのである。生協は，組合員の資格の定め方によって，地域による組合と，職域による組合の二つに区別されているが，大学の生協は職域組合として考えられている。

〝生協の事業範囲〟

生協法によると、生協の事業範囲は次の様になる。

(1) 組合員の生活に必要な物資を購入し，これに加工し，もしくは加工しな

いで，又生産して組合員に供給する事業（供給事業）。

(2) 組合員の生活に有用な協同施設をなし，組合員に利用させる事業。（利用事業）

(3) 組合員の生活の改善及び文化の向上を図る事業。（生活文化事業）

(4) 組合員の生活の共済を図る事業。（共済事業）

(5) 組合員及び組合従業員の組合事業に関する知識の向上を図る事業。（教育事業）

これらの事業の経営主体として，生協が認められているのであって，営業の許可，免許など他の法令によってその事業につき規制されている場合は，それぞれの許可，免許などを得なければ行なえないことは言うまでもない。(1)の供給事業は食堂，売店から図書などを供給する事業で(2)の利用事業は，極めて広義に解釈されており，土地とか建物，浴場の物的施設の利用をはじめ，理髪，美容，病院，保育所，貸屋などの人的及び物的施設の利用から，派出婦，技術員の人的施設の利用までも含めている。(3)(5)は，各種講習会，講演会，映画会，図書室の利用，機関紙の発行が挙げられる。(4)の共済事業は，日常生活に於る偶発的事故に伴う経済的需要を相互に見舞う（見舞金給付などで）事業であって，最近では，各種保険と同じような形態をとるものもある。この事業については，法律的にも，政治的にも難かしい議論があるが，要は加入者保護の問題にあるので，この点を重きに置いて特別にみられている。

以上，生協法を念頭に"生協"を説明して来たつもりであるが，分って頂けたであろうか。生協について，定款，役員をはじめ，組合員の权利，義務なども説明すべきであるが，これらは，次の機会に我々の協同組合について書く時，同時に書きたいと思う。協同組合には，各種各様のものがあるが，全て，生協と同じものと考えてさしつかえないと思う。

最後になったが，現在，大学生協に於る水道光熱費を国庫負担にする運動が盛んになっており，また同時に"大管法"と同じように，大学生協を，学生補導とか，中小企業を助ける為とかで，国家権力でもって，再び押えつけようとする動きがない事もないのである。（今，"再び"と書いたが，これは昭和28年に一度，政府がこのような意図を示したが，各大学生協一特に京大一の反対で消えた事実があるからだが，この件については，手元に資料もなく，詳しく説明できない。）我々の協同組合の理事の内にも，"協同組合を大学本部の経営にしろ"という意見をもつ人もある。我々は，我々の自由で豊かな学生生活の為に"生協運動"を理解しなければならない。

サラリーマンの一日

市村　晃

「ビビビー」ああ，7時半か，愛想のないブザーめ，もうあと2～3分。「市村さん。もう皆出勤しましたよ。お弁当をここにおいときますから」「はあ？はあ！」おっといけねえ。何時だ，8時か。こいつは大変だ。ええい今日はスポーツシャツでいい。これだとネクタイなしですむからな。上着をきて顔…顔なんか洗わないでもいいや，どっちみち，ウチの工場は女の子が少ない。朝メシもぬいて，定期とサイフ，それからハンコ，今日は給料日だっけ。ええともう忘れもんはないかいな。カギをかけてっと。弁当をデラクールカバンに放りこんで，階段をかけおりる。右足首がまだ痛い。1月にスキーへ行ってネンザしたあとがまだよくないんだ。またどうしてこの道は石ころばかりなんだろう。歩けやしない。もう8時5分か。あと10分しかないな。市電ではもう間にあわん。「おういタクシー」えー，いっちまいやがった。緑ナンバー，黄ナンバーでもいい。「おうい」三台目にやっとタクシーがひろえた。「どこまで行きます」「東橋だ。はやく頼むぜ」車のラジオはちょうど「サザエさん」をやっている。東野英次郎の高笑い。また車がつまってやがるな。「線路の上を走ってくれ」あと3分か。あゝ竜宮町の赤信号。やっと動き出した。前のダンプがじゃまだなあ。あと1分だ。「そこのえ番目の門の前でとめてくれ。そこそこ，そこでいい。いくら？」「90円です」100円出した。10円銅貨をもらったのと，サイレンの鳴るのと同時だった。警報の大ヤジさんは，ケサの最後の日勤者の出勤を迎えたが，こちらは一目散にびっこをひきひきタイムレコーダーへ。ええと，どの時計が，まだ間にあうかな，あったあった。タイムカードをさしこんで，レバーをおしてガチャン，ええと。8時15分か。間にあった。歩道と車道の区別なく，工場の敷地の中を急いで歩く。本当は，職場に8時15分までに着いていないといけないらしい。何ぬかしやがる。大体研究者に勤務時間を設けて，それに従わせようというのが気にくわん。でもな，工場の中だから，他の職場の連中とペースをあわせにやならんしなあ。　うるせえことだよ全く。　やっとうすぎたない建屋についた。　どうだい　この古めかしいハイキョは。　こんなところで研究ができるかい。　しかしここからPNC法が生れたんだからなあ。2階へついてと。ドアーを押した。いつものとおり硫酸でアナのあいた作業スボンと青のジャ

見

～3分。
から」「は
ええい今
上着をき
の子が少
料日だっけ。
クールカ
スキーへ
石ころば
いな。市
緑ナン
ひろえた。
ど「サザ
がるな。」
動き出し
前でとめ
した。10
マジさん
をひき
あった
えと。8時
急いで歩
何ぬか
のが気
わせにや
生につい
ができ
いてと。
のジャ

ンバー（松本先生御愛着のはず）を着る。腰に手ヌグイをぶらさげてと。（こうするのは僕だけ）机についた。またどっさり回覧誌がのってるな。「K君」オレがこう呼べるのは彼1人。私と同期に入った高卒だ。やっと今年からついた僕の助手。おとなしいヤツで，こちらからいったことは良くやってくれる。何でも同期の高卒の中では，1番成績がいいらしいが。積極性のないのはちとおしい。「今日中に日誌を出してな，それからナイロン塩を精製して，重合できる様に段取りを組んでくれ。えーとそれから，このポリマーの糸を引いてくれ。わからんことがあったら何でも話してこいな。」これが1日の日課の第1番目。オレは，原料の合成の文献を調べに3階へ，オレもようやくナイロン屋になってきたワイ。見いなあ。PNCのHCl gas か，たまったもんじゃないや。「おはようございます。」「おはよう」図書へくると，やっと女の子の顔がめについた。CAを取りに書庫へ。こいつは重いなあ。右足にこたえるぜ。またこの閲覧室は狭いやないか，subject-IndeXをひくのにも慣れてきたが，独特の名まえのつけかたをしているからなあ。でもなんだなあ。このごろは，加速度的にCAがふえてくるなあ。あと5年もすればこの書庫も一杯になるぜ。なんせ，この僕もCAの数をふやすような仕事をしているからなあ。9時頃になると，ついたてでしきられている隣の会議室（コーナーといた方がいいかな）で，親睦会のハイキングの計画を始めやがった。「名鉄で……，費用は……，ここで昼飯にして……，バスは……，そんなことはねえ，おれのおらん時にやってくれよ。気がちるじゃねえか。しばらくすると，電話だ。「ハイハイ」「ナイロン塩がうまく精製できませんが。」「そんなことはないはずだが。」「非溶剤を加えても均一にまざらないんです」「じゃ行くよ。」実は，これではいけないんだが研究者は，出来るだけ自分で実験するようにせにゃいかんからな。やはり僕がいってよかった。なんせ，実物をみないとなあ。印象が残らねえや。「ああ市村君」主任研究員が呼んだ。「この報告書には，まだ問題のある個所が多いが一応指示したところを書きなおしてくれんかね。」 みるとまっ赤，一行おきに雑センにかかれた文字の，まさしく行間に赤エンピツで几帳面に書きかえたり，消したりしてある。ムカッ。しかし，これにも慣れた。赤でなおされない様になれば，見離されたか，よっぽど優秀かどちらかだそうだ。これはおいといてと。また図書え。そうだ，その前に学院に電話しよう。化学の教師に命ぜられたが，この教科書は一体何年間でやるのだろう。ええと一，3－3－2「ブーブー」ええい話し中か。「今池に音楽キッサができたわよ」てなことを話してるんじゃないかな。

こうしてこともなく午前は終った。寮のオバチャン得意のイカのカツを食いながら，当番の男の子のだしてくれたお茶へ「ありがとう」といって飲む。新聞を読んだ。春斗3万2600円の賃上げ要求か。そういえば定期昇給と重なるな。でもゼニは多ければ多いほどいいけどよ，それより休暇がほしいな。年7日の年休，それに会社協定休日が10日。これも年末年始の4日，国民の祝日，工場記念日，メーデーを含めてと末やがるから面白くねえじゃねえか。東京，大阪は，他社も国民の祝日は休みで，それでは商売にならんからといって国民の祝日は皆休み。ところがオレンチは，名古屋市でも，伊勢湾台風でやられたところで，オ3重合課の5階からすぐ海の見える名古屋の南の端。文化果つる工場地帯のどまん中。オレらには休日は少なくていいらしい。ばかやろう。スキーで足もおれないじゃないか。天気がいい。屋上でバレーボールを楽しんでいるらしいが，オレは足がダメだからな，硫黄倉庫のナナメ向かい，アンモニアの貨車を横目でにらんで，仰向けにねころんだ。まぶしい。最近寝不足で太陽がまともにみられない。そう夜汽車で一睡もせず，宇奈月から樺平までお伽列車に乗ったときと同じ。うーん。いい気持。ポーン。また飛行機が落ちてきたかな。なんだバレーボールが。これじゃ上向いて寝られやしない。おう神様，私達に遊び場をお与え下さい。その点エヒメはよかったなあ。四国の総合グランドみたいだったな。おイナリさんのすぐうらが松林，その先に白砂が延々とつゞく。おだやかな瀬戸内。小型の船舶が1隻。いいなあ。工場の廃液の排出口が見えなければなおいいが。「皆様，あと5分で午後の仕事がはじまります……」分ったよ，分ったよ。よっこらしょと。

午後もずっと図書館で横文字読み，相宅先生が言ってたな。「日本語だと思って読みなさい。」最近，ロシア語の文献が多くなってきた。試みにえっちらおっちら文法勉強しているが。だめだあ。ドイツ語もおぼつかないくせに，おっとっと。そこがオレとキミの考え方がちがうところだ。日本語なんてきわめて異質なんだよ。ロシア語，英語，ドイツ語，フランス語，その他もろもろの文明国の言葉は皆方言なんだ。ましてヨーロッパ語が人間にとって母国語で日本語は外国語だぜ。悪いね。ロシア語でも一語一語字引で引いてみると，専門語はそうかわらん。発音さえおぼえれば，英語，ドイツ語をやったヤツならそうむつかしくないな。とくに表やグラフだけなら，分るもんだ。「もしもし東亜合成のテニス部のものですが……」「未圓雑誌会たのみます。」「輪読会の当番は今圓君やったかな」「今日帰りに女の子つれて鶴舞公園に行かんか」「Aの結婚式が5月15日だってさ。プレゼントにベットシーツ1圓間

分てのはどうだい」「市村さん。糸が引けましたよ」「高分子年会に出たいかね」一時間の内のこれだけ電話がかかってきた。とにかくサラリーマンは熱中できんよ。まさに全人格を暴露して勤務してるんだ。個性を隠すより，かえって何もかも見せびらかしておいた方が，とにかく多くのヤツとっきあってた方が何かと都合がいい。

サラリーマンてのはねえ。自分の身体が資本なのだからさあ，無理しちゃいかん。残業して稼ぐヤツもいる。「受験勉強時代のつもりでやれば何でもないさ」彼には青春があるのだろうか。最近はその点うまくなったな。4時半に終るが，まあ5時半までにはタイムカードを押すよ。そうそう入社して半年ぐらいは，よく押し忘れて帰ったあ。頭の右後を右手の中指と薬指でかきながら「あのう，売店でブリーフを買ってたら忘れました」って。あああ，学生時代がなつかしい。勤務中には寝ができんからな。それだけじゃない。学生ってのは，ほんとうに自由だ。とくに山スタイルてのはな。何でもできるさ。女の子のすわっているシートの下にもぐりこんで，グウスカ寝られるしな。

最近考えてるんだ。職場のマンネリズムをどうしたら打ちこわすことができるか。仕事が面白くて面白くてたまらん様にするにはどうしたらよいか。要するに，我々はどっちに転んでも会社を離れては生きていけない。会社が自分の一生をつくってしまう。そうすれば自然とサラリーマン根性になっちゃう。オレは研究者のつもりだが。他人によそよそしくし，上司に言われる通りにし，部下を思いのままに使う。こうしていれば，こともなげに課長にまではなれる。大抵の人は，はいそれまでよ。ここで考えた。やはり社長にまではならねば。いや，総理に，いや世界連邦の盟主に。こういうスケールの大きい人になるには，とにかく「徳川家康」や「世界の歴史」を読むのもいいが，何んでもやってやるという精神だな。しかも，できるだけ人とちがったことを。そして同じことを。そして自分を知ること。いつも自分をあらゆる角度からみている別の自分（これは一定不変）をつくっておいて，この場では，どうaction をとったらよいかをもう一方の自分に指図する。この境地。実に大切。オレは専門職だといわれる。医者，学者，作曲家，みな専門職だと思っていた。しかしその中の「えらいさん」にあっていつも思う。この人はオレとちっとも変らない。実に平凡な人間ばかりだな。同じように考え，同じように感じている。「チボー家の人々」に出てくる一群の人間像と全く同じヤツばかりだ。アホの一つおぼえ。なるほど名前は後世に残る。すばらしい数学の天才は，死んでから100年ほどして有名になり，200年し

てから，その理論が役に立つ。しかしその人の存命中は，世間から認められないし，自分も孤独だったろう。我々は自分が死んでから100年たった後に生きている人のためすばらしい遺産を残しても何にもならない。とにかく生活をenjoyし，我らの時代の人々のために働くことこそ，本当の人間の生き方なのじゃないかな。どもするとセクショナリズムに陥りがちな研究者。しかしこれからは一人では研究ができない。それほど事態は多様化している。自分をさらけ出し，多くの人と語り合い，行動をともにする。こういう人だけが，資本主義社会，共産主義社会を問わず，この世界で成功し得る人であろう。

市電に揺られて5分で着く。カテリーナバレンテを見るヤツ。若トリのモモヤキをしやぶるヤツ。碁に興ずるヤツ。これらをジェームスディーンが映画「理由なき反抗」の中で飲んだようなカッコウをして牛乳を飲み干しているヤツ。中にはすぐベッドにもぐりこむヤツもいる。「山と渓谷」から切りぬいて壁にはった冬の凍師が雄大だ。愛大生も次々と発見されていく。空木へいった杉原，北野両君はもう見つかったかい。

注：筆者　東洋レーヨン技術研究部名古屋研究室勤務（37年度卒業生）

大学の講義

4回生　有松利雄

一回生の諸君はこの大学に入って約3ケ月色々な講義を聞いて，これはなかなか良いとか，大学の講義なんてつまらんもんだなと思ったりしているであろう。二回生位になると色々なやつがでてきて，くそまじめにかかさず出席するのや，さぼってばっかりで講義に出てこないのができてくる。極く普通のやつは適当にさぼっているのだろう。三回生ともなると実験の時間がふえ，講義に出ずに実験をやっているのもいようし，きちんきちんと真面目に出席するのもおろう。講義も専門科目で実験室で顔なじみの先生が講義してくれよう。学生，教師とも皆それぞれ講義というものについて色々な考えをもっているだろう。僕は講義というものについて，知識そのものを豊豊に授かるよりもむしろ，そのきっかけをつくったり，或は知識を吸収する方法を学んだり，或はその学問の現状を聞いたりするものと思っている。それでこの講義というものについて色々気付いたことを書いてみようと思ったが，繊

講義の準備に忙がしく（というのはうそで実は文才が全然ないから）なかなか文章にならない。お恥かしい次第であるが気付いたことをぽつりぽつりあげてみます。

※出席を採る教師がおる。出席を採ること自体何も文句はない。いや種々のことを確認する為には良いかも知れない。しかしこの出席採りに色々と工夫をこらすようになっては最後である。講義そのものは何十年も前の古いノートそのままでいて，そしていかにして学生の余りいない時に出席をとろうかとない智恵をふりしぼっているようではとても良い講義などできまい。講義が良ければ学生は自然集って来るはずだ。

※学生が余り集まらないからといって気を悪くする教師もいるかもしれないが，学生が少ないからといって講義ができないわけでもなかろうし，かえって少ない方が講義はしやすいだろう。たくさん登録していても受講するものが少ないということもあろうが，それはそれでよい。教師自身の考えを学生全員が辛抱する必要はない。そういう学問をしようという意欲のあるものだけ集まればそれで結構である。

※不合格のたくさんつく科目がある。担当の教官はどういうつもりか知らないが、僕達からみればその教官の講義の上手下手のバロメーターの一種ともなりうるものである。

※僕は工芸の方で2，3の講義をうけてみたが，期待はずれのもあったし，たいへん面白いものもあった。この面白い講義ということについて考えてみて次のような文句がでた。専門科目の講義なんかでは2，3の講義で重複した部分をおそわることがよくある。その時どちらもだらだらと通論的に講義することが多い。その時せめて片方だけでも特論的にある部分を取り上げてほしい。今まで色々講義を受けて面白かったというものはどれも特論的にある箇所をとりあげてやったものであったと思う。それから特に難かしい箇所はどちらの教師も「他の講義でやられるでしょうから」といってやらない。そういう所こそなんとか教師の方々に解説してもらいたいのである。このような勇気のある教師をこそ望む。

※不足している講義がたくさんある。或は名目だけはよくても内容が名目とはおよそかけはなれた期待はずれのものもある。もちろん講義だけで立派な知識をもとうなんて大間違いで自分で勉強しないことにはお話しにならない。しかし是非ほしいという講義はまだまだある。

この学校を紹介してくれた人

1回生　定田美樹子

一番よく遊び，一番よく悩んだ受験の1年間。現在の自分を見つめるとある友達に少々感謝しなければならぬような気がする。小川さんというボーイシュな女性がその人である。十一の性格の差の上にも，いつのまにか親友と呼び合えるようになったのは3年の一学期末……。

「母さん行ってきます」「美樹アリナミンのんだがけ」これが毎朝登校時の私と母の会話だった。7月13日の8時25分。期末考査終了日、鞄の中は下敷，筆箱，それと海水着。堤も堀面も一面濃淡の緑でうまった公園のそばを通り，貝塚坂を登り、広場を抜けて国道に出る。四方八方から合流した学生の行列が学校街の門々で少しずつ吸収される。私の学校は3番目の門。大きいもみや，ヒマラヤ杉の下を通り教室に入る。代数と古文のテストを受けて主任教授から夏休みの注意，先生には申し訳ないが私の心はすでに雨晴(あまはら)しの砂浜にとんでいた。そこは私の生物クラブ時代，海水のPHや有機物の実験、海藻の採集に時を忘れたなじみの場所。いやな事がある度にそこに行って一人で散歩したのである。でもこの頃から彼女も同伴でよく相談事をしに行くようになっていた。先生の長い話も終って廊下に出る。1組の方に目をやると小川さんが立っている。手でdownの合図。南北の階段から下に降りて正面玄関で会い，すぐ学校の前の中川駅から汽車にのる。テストの答合わせをしている間に雨晴しについた。すぐ素足になり砂浜の上をゆっくり浜屋へ行く。砂の感触と強い日照りが体の中にしみてくる。静かな海，真青は空と海がにくいほど調和していた。左右に広がる立山連峰と能登半島が澄んだ海面に影をおとしていた。堅苦しいテストの後なので何とも言えぬ軽快さ。1時間充分泳いで疲れた体を横にして話に入った。彼女は自己を愛しすぎる。私は自分を簡単に殺してしまう。何事に対しても彼女は私に徹底的に批判する。この時もある事に関してかなりねばり強く意見を交換した。結局私の考え方も常時心のすみに置く必要を認めるが，現実的には彼女の考え方で進まねばこちらの負けであるという結論が出た。実に生命力の強い人だと思った。そして彼女を友達にもつ事で心丈夫になるような気がした。彼女の他にも仲良い人が二人いて，4人でよく遊んだ。国立理科系2人，私立理科

系1人，私立文科系志望1人の4人である。小川，堀さんは超現実派、私と本多さんは前二者にひっぱられている方だった。学校に一番近い私の家で，4人集まり、受験勉強を名目として雑談に入る。テーブルを囲んで英語の辞書を片手に，男性のダンピングから政治論，人生論にまで花を咲かせた。何時間話し合っても合致しない時は，一応それぞれの意見として認め合うが，個性をなくすような妥協はなかった。だから性格が違っていてもこんなに仲良くやってゆけるのだろうと思っている。

夏休みの後半は，さすがに4人とも少々気を小さくして，朝5時頃から学校の中庭に机を出して，朝日を受けながら，緑の美しいたくさんの木といっしょに新鮮な空気を吸いながら気持よく勉強した。中央の噴水がしだいに細かに揺きはじめる美しさは格別だった。でだしはよかったのだが勿論7時頃にはもうアウト。それでも結構能率があがった。一人子にありがちなくだらない陰性をおびた私に手を焼いていた母も，急に陽性転換した私に少々不安ながらも，友達と遊ぶ事は大いに認めていたらしかった。

10月のある日，小川さんが厚い本を持ってきて，2期校は京都工繊大の意匠か建築にすると言いだして，デッサンに通い出した。初めて聞く名前の大学だった。でも京都に一種のあこがれを抱いていた私は異様なほどに興味を覚えた。私は化学が好きだったのでそれを挨んで母に言うと，自分で判断しなさいと言った。主任教授に話すと、変な顔して首をかたげる。まだ高岡高校からは1人も送り入れていないし，むつかしさの程度も全々わからないとの事。他に2期校で私の好む所もないので，母に1期校がうかれば京都へ受験に行ってもいいという条件で許可を得た。ところが4人とも2学期後半から男性の問題で頭を痛めて，大雪で完全にまいって，小川さんはとうとう1期校は文科系にし，2期校も富大の薬学に変更。私は一期校は下げたが理科系にし，2期はそのままにしておいた。2人ともどうにか1期でパスしたので，私は大きい夢を持ってこの大学に受験に来た。だがげっそりした。木が少ないのだ。学校というより何か試験所みたいな感じ。でも京都そのものには全くほれてしまった。そして現在に及んでいる。通学しはじめていつのまにかこの大学が好きになった。充実した高校時代に比して，もの足りないのは，やはり下宿生活に追われて社会性の目がうすらいで行く上に、徹底的に物事に対して意見をつっこんでいける親友がいないという事。

富大の薬学を失敗した小川さんからは，文科系におさまった彼女自身を深く後悔し，反省している事。又私に対するするどい忠告、日本女子に入った本多さんからは楽しいダンスパーティの話や男性論。他の浪人生からも自己判

断をした手紙がたくさん来て，私の神経をピリッと引きしめてくれる。若気のあった高校時代より充実した大学生活を送る為に良き友である小川さんをもう少しさぐりたい気持だ。そしてこの学校を紹介してくれた彼女に一種の感謝の気持を持っている。
海よりも深い彼女、目前でけなしてばかりいるからここでほめておきます。

社会人二年生として

荒瀬治夫

学窓を出てまる1年、やっと会社の空気にも慣れ、おぼろげながらではあるがこれからの自分のペースというものを把みかけて来た頃である。眼に触れ，耳に聴くものが全て新しく感じられ、めまぐるしく過ぎてしまったこの一年を振り返って見て、自分自身がそれらを整理する意味でも、且つ何らかの形で少しでも後輩の皆様に考えていただける事があればと以下の拙文を呈する次第です。

入社後1ヶ月間、本社で学卒者全員の集合教育を受けたのち、夫々各工場に配属，工場に配属されてからも約3ヶ月間実習として各部課をまわり、現場の作業員と共に交歓などやらされ楽しかったが　肉体的には疲労を覚えたものだった。実習中は一般作業員（工員）並みに扱われ　随分力仕事もし、夜勤などでは、彼らとY談もした事があった。最初はバカらしく思った。いくら実習とはいえ学卒者にこのようなつまらぬ作業を工員連と一緒にやらせるのかと。　実際頭など使うことはなく，30ℓの乳剤の入った重いステンレスビーカーを溶解釜にいくつも移したり、機械のゴーゴーまわる傍で機械のSmoothに動いているときは、腰かけてポカンと眺めていればよかった。でもこれらのことは決して無駄ではなかったことがその後研究部に配属されてからやっと判った。自分達で，自分達の手で実際に現場の作業をやったということは現場に対する最も手っとり早い理解の仕方であった。現場の状況を知らずして研究はあり得ない。研究部でいくら良いものを作っても現場で製造出来ないことは何の価値もないのである。つまり現場のことを常に考えながら新製品なり改良品なりを研究せよということであった。

我々学卒者は会社という企業の中にあっては常に優遇される。単に大学を卒業したというだけで。中卒，高卒，学卒という学了の違い位しか人を評価

する上に於いてはケジメが付かぬらしい。まだまだ先進国なみの能力給制度などは滲透してはいない様だ。そういうわけで我々はもったいないと思う位中卒、高卒連中と区別し、常に優遇されている気がする（こう思うのはあるいは小生1人かも知れぬが）。しかし中卒、高卒の人だって、明らかに頭が良くて、我々よりもっと深く勉強し、能力のある人がいくらもいる。当然彼らは我々よりも何年も前に入社し、その道のベテランだ。そのことをやらせればとても我々の比ではない。そして中にはしっかりした学問的裏付けをすることのできる有能な人達がいる。ところが企業内に於けるランクは我々と同じか又はそれ以下だ。ここで我々は謙虚な気持が必要だと思う。勿論大学を出たといって学卒意識をふりまわすようでは逆にバカにされるし、そうかといって学卒としての*pride*を完全に捨てようと思っても、捨て切れない。要はそれらの有能な人をそのまま謙虚に評価してあげることだと思う。わからないことはどんどん聞けばよい。（彼らの方が良く知っているのだから）。聞かずに知ったぶりをしても、その場はそれで過せるが、永いつき合いだ、必ずバケの皮がはがれて赤面せねばならぬ。謙虚な気持で人に接すること、——大切だと思った。

私の配属された工場は、短期間に急激に膨んだ工場であるためか、若い人が多く、私も学卒というだけでかなり責任のある仕事もまかせられている。又若い工場であるので、未完成な部分が設備、組織を通じてあらゆる面にみられ、それらの完成は全て我々の若い技術者の肩にかかっていることが自覚され、相当思い切った発言も聞き流されることなく議論の余地を残してくれる。そんなわけで、自分が未だ何も知らないということを盾にとって、どしどし云いたいことを云える立場にある。（あと2,3年もすると云えなくなるかも知れないが）。この点私は幸運に思っている。又会社もそれを要求している様だ。"*fresh*な頭と感覚に大いにこの工場をよくしていってくれ"と。

繊維とはほとんど関係のない会社へ就職したので、私は何も知らない。1から勉強のやり直しだ。この点大学で得た生半可な知識を土台にせずに済んだと思った。しかしそうはゆかなかった。大学で得た生半可な知識ではあったが、何をするにしてもそれらの知識、考え方が知らぬ間に土台になっているものだ。これはどんな畑違いの所へ入ってもある程度いえることだと思う。でもそれは外見に花々しく見えるものじゃないから気持としては1から勉強しなおすのだということに変りはない。従って私の云いたいのは、大学で勉強したことがすぐ応用出来る位、他の連中よりは賢いのだというのでもなく、大学で習ったことなど実社会では何のくそ役にも立たないというのでもない、

これらの中間的な考え方、つまり大学で習った知識なり、ものの考え方は必ず役立つが、気持の上ではそれらに頼ることなく、1から出発するということではなかろうか。

在学中は他の優秀大学に対する Complex と学部内に於いては、繊維化学科という エリート意識の二つが虚々実々のかけひきを演じたものだが、今では前者の方の意識は全くない。母校繊維化学卒業生としての大きな誇りをもっている。私の会社にも、東大、京大などの優秀といわれる大学からも同時入社した者が大勢いた。そして彼らと接し、学問的な議論を斗わしてもこの優秀なる(?)工繊大繊維化学科生は一歩もひけをとらない。才1に母校を見なおしたのは、狭いと思っていた専門教育科目の多彩さである。例をあげるなら、中でも物理化学、化学工学、プラスチックスを習い、且つ有機合成も習っていることなど。大いに胸を張って歩いたらいいと思う。

会社というところは、云わずと知れた人間関係の歯車がかみ合わさって出来ている。色々な人間関係がある。上下の関係、同輩との関係、女性との関係、サークル内での関係、組合内での関係 ---- 。これら全てうまくいってくれればその企業はおそらく大きく発展するだろう。仕事だけやっていてはとても会社という所で生活出来ないとつくづく感じる。勿論仕事を能率よく成果をあげることが1番だ。だがその前に、そのために、人と人との関係を Smooth に解決してゆかねばならない。社会に出てまず考えさせられたのは、この human relation だと思う。

どうやれば、人と人との関係が自分ながら Smooth にやってゆけるかと考えた。それには自分が余りにも若く、幼く未熟だと思った。従って結局、多くの type の違った人、立場の違った人に接し、その中から学びとってゆかなくてはならない。それには何事にも、自らその中に身を投じてゆくだけの積極的な生き方 —— それが仕事に対するファイトに通じていくのではなかろうか。何事にも捨身で積極的にぶつかる —— これが若人としての最も美しい姿だと思う。「企業を通じて社会に奉仕せよ」とは入社時、社長から受けた訓辞であるが、そこまではゆかなくとも、ある会社に入ったからには、その会社を自分の力で動かせる位にはなろうという気概ぐらいは持っていいのではなかろうか。

随分調子のよい事を書いてしまったが、社会へ出てまだ1年しかたたぬ青くさい先輩の才1回目の所見として聞き流してもらっていいと思う。

三菱製紙KK勤務（37年度卒業生）

仮説・進化論

3回生・斎藤　博

進化論は正しくない…といえばこれ迄進化論しか教わらず、ただ教えられた通り信じ込んで来た人は「気狂いじゃナカロカ」と思うであろう。だがどうしてそう思う根拠があるのか。個人の主観や偏見によらず実験の事実と冷静な理論によって判断していく科学者を盲目的に信じようとする事が必ずしも真理を探究している事ではない。だから我々は科学者の不確かな憶説にまどわされることなく正しく事実を調べる必要があると思う。

これまで多くの進化論者連は、表面に見えるものを用いてその彼等の大切にする説を説明し守って来たが現在では、その一つ一つがくつがえされ、真の学問をする人は進化論を信じ得なくなって来ている。

ハッケルは進化論の樹を考え出し、反復説を唱えたりしたが人間の胎児が魚形、毛状、有毛の段階を通るという事に於いても、痕跡器官が進化論を立証してくれるのでなく、それらの器官は痕跡であるというよりその働きが判明しないというのが実際の状態だそうである。

また血液の試験についても、進化論は不利な条件をもっている。ある血液試験に於いて、カエルや蛇やネズミの方がサルよりも人間に近いことが分ったから血液は進化過程での関係を示すものとは考えられない。

考古学的な立場にあっても進化論を説明する道具だては全然そろっていない。進化を説明するために考えられた人と猿との間の中間動物も詳しく研究された資料から考えると、中間動物に対する証拠は見つかっていない。ネアンデルタール人が人間の祖先でないことも、今では広く認められている事であり、それより古い時代の地層から現代人と同類の人間の骨が発見されている事によって証明されている。このような進化論に不利なものが発見されると一体どういう事が起るか進化論者フートンは次のように認めている。「反進化論の人間の化石は、博物館の暗い戸棚の奥深く押し込められて忘れられるか又はこわされてしまう」（猿人間そして痴者…より）従ってパーチヨウ教授の語った様に「類人猿は実在したものでなく中間動物は空想に過ぎない」という事になり、古生物学はこの事について何も告げておらず、結局人間の先祖について何も知らない…とベルリン大学のブランコ教授のいったことも考え合わす事が出来る。スミソニアン学院のオウスチン・クラークも同様のことをいっている。尚、岩石中の化石にも、一つの動物から他の動物に変化し

つつある過渡期的な生物は存在していない。この事も進化論は黙って認めねばならない事実である。ダーウインもこれを認めており「種の起源」の中で次の如く述べていることも注目せねばならない…「地質学は立派に組織だった器官の連系というものを確かに示している。恐らくこれは、進化論を反ぱくする最もまごわいものと成るであろう」化石に示された形はそれぞれ独立したもので、進化したものでないことを如実に示しており真の科学は進化論の誤りであることを明らかにし創造説が完全に正しいものであることを立証している。」こんな事を耳にしたこともない人々は「へエーそんなこともあるのか」と半信半疑でもいいから、今まで正しいと思って来、又今でも正しいと思っているであろう進化論を振り返ってみて、進化論が正しいかどうか考えて欲しいと思う。では、話を続けて行くことにする。ある地層までは化石が全く存在しないが、すぐ上部の地層には沢山の化石が突然現われていることが地質学の本を読めば分る。これは、多くの変化をもった創造が突然為されたことを意味している。オースチン・クラークがリダラリー・ダイジェストで述べた言葉は「動物の大きな分類に関しては創造説は進化論に勝る。動物が別の分類の動物から出て来た証拠がないからである。どの分類の動物も特別の動物体であって……人間は急に現われたのであって、実質上では今日の人間と同じ形で現われたのだ」である。これも進化論が止むなく認めざるを得ない科学的真理である。また進化論者がどうしても否定出来ないことの一つに鳥が全て絶対創造の特質をそなえている事をつけ加えておく。

進化論者ラマルクは器官は環境からある特質を得ると言う学説をたてたがこの特質が子孫に伝えられるという説は、今日の遺伝学で否定されている。「1900年に至るまで多くの生物学者達は植物や動物が環境から得た特質は子孫に伝わると信じていたが現代の遺伝学は伝えられないことを証明している。」（ライフ誌）

進化論の話の中には必ず自然淘汰、適者生存という言葉が出てくるがこれらについて云って見ると、自然淘汰説に対する最も根本的な反対は、それから特質が創造されて来ないということである。つまりすでに今まで存在して来た特質の中から選ぶだけがせいぜいのところである。別の方面から云えば自然淘汰は適者が生存することを意味するだけであって、適者の出現を意味していないのである。

この事を認め自然淘汰の不充分な点を補う為ユーゴ・ド・ブリエは突然変異説を用いている様である。つまりこの突然変異によって適者の出現を説明しようとしたのである。これは御承知の通り、親と子孫との間に突然の変化

が起りその変化が子孫に伝えられていくのだという説であって、変異が急速である故、類と類とを結ぶ化石がなくても良いのだという説明をしている様であるが、どの生物も皆、突然変異だけによって進化して来たのであろうか。進化論の学説には不明瞭な点、あいまいな点が多すぎる。しかし、まあ一応、突然変異によるものと仮定してみても、現在の数多くの実験がこの説をむなしいものにしている事が分る。原子放射能によって自然界では極く稀な突然変異が数多くひき起されて、色々実験されているが、その結果はこうである。数え切れぬ程のテストの挙句、新しい類はひとつも創り出されなかった。それに加えて突然変異の小さい場合は、その変化したものを弱めもし程度が大なら変化したものを殺してしまうのである。

以上の事は、突然変異が新しい類を作り出すものではなく、どちらかといえば、生物体の退化・衰退を意味している。ハーバード大学のジエフリー教授の「ド・ブリエの突然変異説は今や価値のない仮説になった」と言う言葉に実験結果が正しい裏付けを与えているのである。

何も本当のことを知らない人々の頭の中に今でも尚、知識の一つとして、あつかましくも居座っている進化論が、かくの如く、根も葉もない仮説であり、単なる根拠のない想像であり、信仰であることを、不十分ながら述べたが、これに反して聖書の記録は真の科学の事実とぴったり一致している事をも忘れてはならない。科学が進み、深い所が判明するに従って、聖書に基く信仰は深い所に根を下すのだという事も当然の事であり、何も科学と宗教は相反するものではないのである。

進化論について書くに当り、色々の本を参考にさせて頂き、主観も交ったのであろうと思うが客観的な科学の事実で、骨組みを作ったつもりである。

ケツサクな話

研修生

あまりケツサクだ、ケツサクだと云うもんだから俺はわざわざ出掛けて行ったんだ。何だとたずねるとまあいいからという。そんなに大したことと思っていると思われるのも何だからあまり気のない様子でどうでもいいようなふりをしていた。途中で余程やめようかと思った位だがまあ仕方なく我慢した。全く俺を一杯食わせるつもりかと思ったが、はからずもそうはならなかった。あんなデクの坊が可愛らしい女房をいつの間にやら手に入れているじゃないか。こんなことだったら前生一発ぶんなぐってやろうかと思ったが、よく見るとそれが俺の彼女じゃないか。

山の友を偲ぶ

3回生　坂本義章

今でも彼の夢をよく見る。ある時は二人で楽しく六甲の山を歩いていたり、又ある時は二人で白銀の山を登っていたりする。しかし、夢からさめれば、彼はもうこの世にいないのだという一種のむなしさしか残らない。彼の生前の姿を思えば、再び彼が目の前に現われないことがどうしても不思議に思えてしかたがない。彼とは僕の親友であり、山の友であった去る一月空木岳で消息をたった北野正明君のことである。

本学に入って初めて親しく口をきいたのが彼であり、僕がこれ程山が好きになったのも彼の影響である。彼は目を輝かせて山の素晴らしさを説き、僕に山へ登ることをすすめた。彼のすすめによって登山のもつ楽しさを覚えた僕はよく彼と二人で歩いた。その頃には僕もある程度登山の知識を身につけていたので、彼とよく一汗かいた後山の談義に花を咲かせたし、六甲の谷を水にぬれて登ったり、また途中で道をまちがえて後で地図を開いてまちがったことを知り、日暮の国道をとぼとぼ一時間近くも歩いたこともあった。岩登りの手ほどきも彼から受けた。

彼はまれにみるアルピニストだった。重い荷をかついで皆がばてかけていても、彼は平気な顔をして歩いていたし、岩に登れば軽妙なバランスでリズミカルに登っていき、彼から垂れているザイルに我身を接げば安心して後続出来た。そしてその登はんが困難さを増すごとに闘志を倍増していく彼だった。彼はただガメツく山に登るだけでなく、この上もなく山を愛し、山の美しさというものを心から賞嘆した。そのことは彼の数多くの山岳写真にありありと写し出されている。

彼は日頃から山では絶対死なないと云っていた。それは山に登る誰もが口にする言葉であったが、彼のその言葉には、真実味あるひびきがこもっていたし、又自信にあふれていた。彼の山での行動を知る僕はその言葉に心からうなずけた。しかし、その彼が山で死んだのだ。今さらながら、自然のもつ偉大さ、きびしさ、自然の前にいかに人間が微力かということを知らされた思いである。僕は彼の命をうばった自然、山というものを憎いとは思わない。そのようなことを考えさせる次元に自然は存在しない。自然は絶対的である。ただ人間の力が及ばなかっただけなのである。彼のことだ、あらん限りの力、気力をふりしぼって最後までがんばり闘い続けたであろう。そして彼は力つ

きて敗北した。

山以外でも彼と親しくした。彼には多分に子供っぽいところがみられたし、また無邪気であった。単純なそして素直な性格の持主であった。彼のそのような点と気が合ったのかもしれない。1回生以来、京の町を度々彼と歩いたし、パチンコに　飲みに、映画に等々と遊びに行くことならすぐ相談がまとまったものである。去年の学園祭の時に、クラスで出した模擬店でぜんざいを作ったときにも喜こんでモチをついてきてくれたし、当日には非常に協力してくれたことでもわかるように、何事も進んで協力してくれる彼だった。しかし、勉強のほうは山に較べて好きなほうではなかったらしく、したがって成績のほうも僕と同じで優秀とはいえなかったし、よく単位も二人で仲良くおとしたし、果して4年で卒業できるだろうかと、収得した単位数を数えあったものだった。彼と3回生になったら勉強に身を入れようと話したりしたが、彼はその3回生を目前にして死んでしまった。

3回にわたった捜索の結果、彼の遺体を発見することが出来た。彼は道をまちがえていた。そして多分転落したのであろう。普段の彼と杉原氏では考えられないことであるが、あのような状態では無理もなかったであろう。かえすがえすも残念なことであるが、遭難して遺体がみつからない例もあることを思えば、遭難以来、5ケ月目に我々山岳部の手で発見することが出来たことを不幸中の幸いとしなければならないであろう。

登山技術は彼に劣ろうとも、山を愛する気持は負けないつもりであるから彼から与えられたこの素晴らしい一生の趣味である登山を彼に感謝しながら僕は続けて行くであろう。

彼の最後になった山行出発の時のあの無邪気な笑顔は僕の心から永久に消え去らないであろう。

原稿募集

内　容　　自　由

形　式　　所定の原稿用紙（編集委員にもらって下さい）

期　限　　特になし。

尚、新入生の方で編集をやってみたい人は申し込み歓迎します。

第6回 思想、随想、幻想

続 新、侏儒の言葉

4回生・金田洋二

神について

およそ神の事など真面目になって考えたことのない連中によって無神論は支持されている。それ故　私はある意味で神を信じているといえる。

芸術とは

何でも、高い次元で考えさえすれば芸術なのではないと同様、次元を落しさえすれば、良き芸術が生れるとは限らない。よごれ役、あるいは、娘役ばかりしか出来ない役者は大根と申してよろしい。

又、

芸術を客観的に判断する最終的な手段がない以上、芸術上の権威なんて認められない。あるツボが偽とか何とか云うのは、少なくとも芸術家のすることではない。

芸とは

現代の多くの役者達は余り芸ということを知らない。彼等のやっている事は芸ではなくして地そのものである。彼等は、何故、女形（おやま）というものがあるのか理解出来ないだろう。

メロドラマ

メロドラマの中心思想は勧善懲悪主義である。しかし、現在では、これでは飯も食えないのである。

又、

このドラマの害悪性は子供達に、真正直に暮してさえいれば、良い事があると信じさせる事である。この信念が破れる時の人間の変化は恐しい。しかし、近頃の子供は幸か不幸か、このような信念を持ち合せていないらしい。

エディプス・コンプレックス

母親の愛は有難いものである。これ程自分を思ってくれる人は他になかろう。世の男性が、母親に似た異性を求めるというフロイドの学説はもっともな事である。しかしニーチェは云う、「母性愛とは子供を通じての母親の表現である。」と。

二流品

一流だとか、二流だとか言う言葉程、いやらしい言葉はない。それらは、

決して、一流に属する人々からは聞かれないことである。常に二流以下に属する人達は不思議な程、一流という事を問題にしたがる。

新興宗教

新興宗教を馬鹿にする若者達は、自分も又、新興宗教的であるのに気づかない。それも、それを信ずる事が、一種の恥と考えているだけなのだ。

慈　善

慈善とは暇人の高貴な趣味である。その証拠に皇室の仕事は、どこでも慈善ということになっている。

又、

暇人の趣味を満足させ、ある人達が助かるというのだから結構な趣味とは思う。しかし、こういう事が良いかどうかは別問題である。

文化国家

文化とは文でもって国を治めるの意であり、軍事政权に対する語である。少なくとも、我国はこの意味に於いてのみ文化国家であろう。

宗　教

宗教の起った最大の原因は単純にも、死に対する恐れである。だが、この単純な問題は未だ解決されていないし、将来も解決されえないだろう。

勝負師

サイコロで二度続けて"チョウ"が出たからといって、三度目に"ハン"に賭けるようでは勝負師にはなれない。勝負は確率の計算ではない故である。学生で一角の勝負師顔をするのは、よした方が良いというのである。

人間の興味

スターが結婚するだの何のという事は、いやしくも、才気溢れる学生の考えるべき事ではない。だが、決して興味のない事ではない。

賢い人間

阿呆は決して賢くはなれないが、賢い人間は常に阿呆になる時と方法を心得ているものである。

頭の古い人達

"天皇陛下に会って感激した"といえば、若い人達は、そのアナクロニズムを笑うであろう。しかしながら、それらの人々の中により真実な人間がみられるように思う。少なくとも、何でも、封建的だ、文化だ、反動だ、何だという連中よりは。

愛

"愛は惜みなく"とはあたりまえのことである。少なくとも、惜むような

ものは、愛ではあり得ない。同様に愛には、大小などあり得ないのである。

体力と知識

日本では、レスラーのような体格よりも知識が尊ばれるようである。しかし、つまらぬ知識をもつた連中には害にはなつても、余り役に立たない。この考えの源泉は体力に自信のない知識階級が、自己防衛のために、そういう思想を吹き込んだに違いない。

正義の悪漢

何も全学連や無政府主義者でなくとも秩序を守る者程、嫌われるものはない。アクションドラマの主人公の無法者的性格は常に人々に愛されるものである。

庶　民

庶民的排優だとか、庶民的性格の持主だと人に堂々という人達は、一体、どこの、どなた様かと、新めて見直さざるを得ない。

パチンコ

パチンコがゴルフに比べて単純な遊びであるというのが当らないと同様、下品であるというのも当らない。だが、人はその見栄からひがみから、これを判断しようとする。見栄とかひがみとかに比べればパチンコのエゲツなさはしれているといつてよい。

世間というもの

選挙に破れて自分の三十年間にわたる婦人運動が、テレビの人気役者のように無に帰した事をなげいた候補があった。彼女の愚痴も去ることながら、彼女が三十年にわたつて婦人運動をして来たという事自体、誠に驚異的な事ではないか。

自慢の種

どうして、ある種の人達は、酒も煙草もやらないないと、自慢にもならぬことを自慢するのか、わかりかねる。

森を見る君に

『ねえ君、たまには一本一本の木を注意深くみるといいよ。一本一本皆違うんだ。苔むしているのもあれば、枯れているのもある。その中には可愛いい小鳥もいるし、蛇もいる。君が森を見ようとする気持はわかるが、いつも高い所からばかりでは、これらの美しさを見ることは、出来ない。でもね、森を見るのが悪いとは言わんよ。たまには、世間の奴らに、ここから森を見さすといいんだ』

春の夜について

"春眠暁を覚えず"とか、"春宵一刻値千金"とか、古来春の名句は多い。何んとなく眠い春の朝、百鳥の声に目覚されるなんて、京ならではの話である。この春の眠さは、生理学的に説明されると聞くが、その原因に、春の夜がある事は事実のようである。長恨歌の一節にも"春宵苦短日高起"とあり、意味は異っても、春の夜は、何か眠ることを忘れさせる。特に、その日が、音楽会の後とか、あるいは他の楽しいことがあった後などでは、いつまでも、その軽い熱っぽい興奮を残しておきたいという気になる。又、一人悠々と月の光を浴びて、少々酒気の入ったところで、人通りのない通りを歩いていくと、足音がラ・マルセイエーズのような元気のよい響きに聞えてくる。そんな時、御室の山門の突然の出現は、僕を驚かす。暗く巨大な怪物の如きこの門は、昼間の俗物根性のかたまりの様相を一変して、絶対者の如く、僕を見おろし、どなりつける。昼間の馬鹿げた心配は、消えうせ、自分の卑少さを改めて知らされる。頭をガンとやられたような気がして、しばし、放心状態となって山門を見上げ、何か神に祈伏する信徒になったような気持になっている自分を見い出す。悟りとまではいかないにしても、何か、物言わぬ山門から教えられ、いや、暗示を受けたという方が正確かもしれないが、日頃の迷いから解放された気持になる。日頃、どうしても決心がつかぬことが、ここでは、いとも楽々と、何の悲壮感もなく解決していく。その実、その決心というものは、極めてあやふやであることには次の日の明るい日ざしのもとでは、再び迷い出すといったものなのである。そのくせ不思議にも、自分自身、この問題は解決がついたと信じ、再び真剣に考えようという気になれない。こういった精神分裂的矛盾を、何の苦もなく、何の不思議もなく人に起こさせるのが、春の宵の常なのであろう。

編集部紹介

4回生	有松利雄	3回生	加原敬助
	金井政洋		村岡雄一郎
	樋本　勲	2回生	鵜野高資
	堀江　広		小川信夫
			宮崎能夫
		1回生	佐藤光則

研究室紹介

貴志研究室

「蛋白質繊維化学講座」というのは貴志研のことである。その名の示す通り、研究対象は蛋白質である。僕個人の考えによれば最も将来性のある分野の一つがとりもなおさずこの蛋白質なのである。蛋白質は実にユニークな高分子物質である。特異な化学的性質と天然蛋白に見られる複雑巧妙な構造を解明し、合成することは理学的にも工学的にも重大な意味をもっている。ガンや生命の問題にもつながるものであるといえば、その重要性をある程度わかってもらえるだろうか、ハッタリはここらでおくとして本研究室は合成蛋白繊維を目指している。現在合成蛋白繊維はポリグルタミン酸とポリアラニン位しか完成されていない。もっと多くの蛋白質繊維を開発しようというわけである。

御大貴志教授は蚕の蛋白質に関する研究に大きな成果をあげられ、また学術会議ビタミン委員会のメンバーでもある。卒論生の指導をして下さる武内助教授は4日まで阪大に研究に行かれ、最新の知識を仕入れてこられた。まさにファイトの塊といった感じだが、口数の少い好学究である。加藤さんは昨年のS卒業生である。この実験室にトグロをまいている4回生は6人である。いずれも平凡とはいいがたい面々であるが、結構よくまとまっており、お茶を飲みながらの雑談の合い間には芸術論や人生論も出現して人間形成にもまことに有益である。その上卒論のテーマは皆ユニークなものだが、それだけに勉強することも又多い。ユニークな人間に明るく清潔な実験室でのびのびとユニークな研究をさせれば極めてユニークな卒論ができるだろうことは容易に想像される。今年度の卒論発表会に御期待下さい。こう書いてくると結構ずくめなすばらしい研究室だと思われる方もあるだろう。こちらもなるべくそう思ってもらった方が好都合である。

冗談はさておき、6人のテーマを紹介しておきます。

内海　裕　　アミノ酸の熱重合

大川晋一　　蛋白質及びペプタイドの末端基定量

川口泰明　　アクリロニトリルの光増感重合

田中和彦　アクリロニトリルの光増感重合
竹西壮一郎　ポリグリシンの合成
山口重次　グリシルLリジン，グリシルLグルタミン酸をクロロアセチル法によってデイペプタイドになし共重合

以上の他に客員として井垣有富が雑誌会および雑談とお茶の時間に参加します。またS科2名、F科3名、計5名の人々が研究にいそしんでいる。

（文責　竹西）

町田研究室

みどりの風がさやわかにふきぬけているわれらの町研は本館2階北東隅の部屋と一階手洗い横の小部屋とからなっています。実験室はいつも明るく静かでまことにめぐまれた環境にあります。ずっとたえることなくうけつがれているアカデミックなふんいきと一糸乱れぬチームワークのよさとを誇りにし、あらゆる設備が完備しているというこは他の研究室のうらやむところです。それはまず町田、内野、成田、稲野諸先生という充実したスタッフによるのです。C科の育成発展に努力されいつもまとめ役をされる町田先生、その温厚着実な人柄により部屋全体にのびのびしたムードがかもし出され存分に研究にはげむことができます。町研の推進力ともいうべき内野先生は筋金入りの研究者であると同時に碁やバトミントンのうまさは格別であるという多才ぶりを発揮されます。いつもニコニコと親身になって卒論生のお世話をされる成田先生。下の部屋でロシア語も勉強される稲野先生。

さて卒論生はといえば円満にしてスケールの大きい人間を目標にし、口数こそ少ないが内にひめたるファイトはものすごく自分の納得のいくまでがんばりぬくという者が集っていて、ヒマな時にはすぐアミダがはじまり室内ははつらつとした若さと明るさにみちています。

その卒論生は，

池本陸男　スチレン～メチルメタアクリレート共重合物のヒドラッドの利用
日高公雄　酢酸ビニールとイタコン酸との共重合
酒井睦司　スチレン～無水マレイン酸共重合物から反応性高分子の合成

佐野準治　石油樹脂を利用した高分子染料の合成
七原康行　デンプンの酸化剤によるグラフトポリマーの合成
志村義之　スチレン～イタコン酸共重合物より高分子染料の合成
田中孜郎　スチレン～アクリル酸メチル共重合物のヒドラジッドの利用
西尾尚之　ポリアクリルアマイドとアセトアルデヒドの反応について
根岸靖雄　ジアルデヒドデンプンのグラフトポリマー
松原　博　グルコースのイソシアネートについて
山田雄亮　石油樹脂のビニールグラフト重合

岩崎研究室

岩崎研究室には今年は我々13人が集まった。成績は非常にいい奴もいるが非常にいいとはいえない連中もいて適当にバラエティに富んでいるが、全部に共通していることは、芸術づいていて非常に口うるさい連中があるということである。一言いえば5口、10口と束になって帰ってくるが、一向に気にしないのが又特徴で痛烈な皮肉、批判をあびせても商単に引き下るような線の細い奴は岩研の住人とはなれない。とにかく皆若く血気にはやっていて意気盛んである。繊維展も終り、これから本格的に卒論実験に入るわけであるが、まだまだそうがつがつはせずゆっくり考えてから腰を上げようと思っている者が殆んどである。単位にしてもまだ教養の単位を残している者も多いが別にあせっている様子もなく、残り少なくなった京都での生活を一段と印象ずけるために有名な史跡、寺院等を見て歩くとか、京都の味を食べてみるとか、その他ハイキング、マージャン大会等で京都と共に一緒に暮して来た友人をより一層理解しようと計画している。とにかく愉快でおとなしいことのきらいな者がそろっているのが本研究室の特徴かも知れない。その上昔の諺の様に「弁頭多くして弁山へ上る」といったのではなくして口うるさくガチャガチャいっている中に誰れからかさっさと実行に移すのも又伝統的な特徴である。岩研にはこの外F科から数名の卒論生と東洋レーヨン、東洋紡近江絹糸、帝人、敷島カンバスから聴講生が来ているがみんなこの雰囲気に溶け込んだり、又たくましい雰囲気を吹き込んで下さったりして非常にうまくいっています。次に本研究室のスタッフ及び我科の卒論生を一人づつ紹介

しておく。

岩崎振一郎教授　工博　京大(工)卒　わが国ビスコースレーヨン研究の先駆者。積分反応理論の提唱者。

後藤四男助教授　工博　京都高蚕卒　わが国電子顕微鏡的研究の先駆者。絹の糸状形成と繊維化工の研究

高橋重三　助手　京都繊専卒　ビスコースの主として物性の研究中

松本喜代一技官　京都工繊大繊維化学科卒　繊維化学工学研究中。
　　野球部員軟式野球部の切り札。徹底した南海ファン。

卒論生としては

金田洋二；勉強家ではないが読書家で知識家、情熱家、101号室の1番奥に居る三角野郎，口うるさいこと岩研一。

藤田　治；謂ゆるムツツリ型の典型。かしかしーたん口を開くとかなりの事をいう、弓道の心得あり。

吉沢靖夫；岩研きっての、いや4回生きっての成績を保持し、マルマンの大のファン。彼の出来るのは勉強だけではないんだ。

平田民雄；京都で育った京男。鴨川の水で顔を洗うこと二十数年にして京都のすみずみを知っている男、色も白く紳士然としているがなかなか------?!

今部行男；自治会委員長を努めたこともあり、そのキャリアーは豊富、自治会に限らず委員長役には最適の男、昔習ったドイツ語の教師の名前に似ているが中身も共通したものを有す、案外まじめな奴である。

内田武男；松本技官、吉沢君　北島君と共に洛陽高校の成果を世に露らしている。一見して秀才風、朝日ジャーナルをよく持って歩いている（多分読んでいるのだろう）

北島義和；一見紳士風、咳払い一つにしても、又物のいい方にしても彼は英国（どうでもエーコク）紳士。しかし一口ひらけばかなりのことをいう。

北田友彦；ガチャガチャ云う岩研にあって歌でも歌おうと男声合唱団に所属しているが、どうやらこのgroup蛮声合唱団或いはオンチクラブとでもすれば団員数ももうちょっとは増えるだろうにと考える者多し。

堀本　勲；準硬式野球部の大型キャッチャー。バッティングは三振か三塁打かという豪快型。何事も豪快な奴である。エヘヘヘヘ----。

藤岡　勇；手がはやくて、気がはやくて、仲々のフエミニスト、非常な度胸を発揮する時もある。最近勉強の方もしているみたいだ。

堀江　広；愉快な奴、やや人間味が身につき始めたがまだまだ人間離れしている面もあるとは老のうわさ。マアエテ、エテ！

酒井正幹；神戸は湊川界隈の産で大日本帝国華やかなりし昭和15年生れ。名前も楠公父子の一字を受けて正幹。弓道部のベテラン。つもる酒井とか、悪い方の酒井とかで町研の Small 酒井と区別されているが、成績だって悪くはないんだ。

有松利雄；岡山操山出身で向う意気の強いことは西のアデナウアーか東のアリツかといわれる位。横巾が背丈に比べて小さくスンなりとしたおにいさん風。

以上の13名である。この中金田から梱本までが反応工学研究室で後の4名はビスコース研究室に居る。昼休みにはキヤツチボールかバトミントン、又は池のまわりでダベっているので話しのしたい方は遠慮なしに来て下さい。

相宅研お脈拝見

この研究室で昔何をやっていたか、自分は全然知らない。しかし今やっていることぐらいはちよっぴり見れば分る。だから過ぎたことをくだくだいうのはやめにして、さっそくみんなの住んでいる部屋を覗いてみることにしよう。

まずは北の応接間を覗いてみよう。南隅には、足はしっかりしているが、上のカバーが少々朽ちたボロ椅子に腰をおろしている人と、その横に堂々たるタイプの男がいる。これこそまさしくお客で、ボロ椅子上の人が相宅教授である。まあ中肉中背といったところで、何となくこくのある様相を示している。ところが、今腰をおろしていたかと思うと、不意に各室をまわってきて、"オウ、君、できたか""どんなになった"とくる。"あのう、こんなになると思いますけど""いや！それはまだやってません"いやはやこんな返事は実に不届きわまるもので、雷の落ちるのは太鼓バンといってよい。この原因は、失敗したからというのではない。実験毎のデーターの整理をおこたり、うそでない確実な結果を身につけていないためである。我々は常にこの不意打に

対する準備をおこたってはならない。しかし、うまく実験が成功した場合には頭をなぜてくれるまではいかなくても、まことに機嫌がいい、まったく、卒論生 15人のおとうさんといったところだ。この室には4人の卒論生と2人の研修生が生活しており、相宅、山崎両先生が飛車、角のごとくななめ、横とグツトにらみをきかしておる。

上田宏吉　（高分子の球晶の研究）---------トーコープ係
加藤龍雄　（粘度による高分子の物性）------時計係
浜田徹哉　（オレフィンのハロゲン化と接着）--雑誌会係
片上順子　（ポリエチ、ポリプロの染色と物性）--あみだ係

次に西の居間を覗いてみよう。ここでは8人の子供と5.6人の3回生がくらしておる。特に重合の実験を行なっていて、フラスコ、ビーカー類がずらりと並んでいる。しかし、いつも実験しているのは3回生ばかりで、子供は2.3人といったところ、やはり遊ぶのに夢中なんだろう。

横田佳雄　（スチレンの連続重合）--------- リコピー係
久保栄一　（ナイロンの固相重合）---------- 図書係
山本卓生　（アクリルの重合）　---------- 園芸係
川島淳夫　（放射線重合の研究）---------- 薬品係
長田　徹　（ウレタンの重合）　---------- 会計係
大島　勲　（架橋結合の研究）　---------- 写真係
金井政洋　（アミノ酸の重合）　---------- レクレーション係
吉田政彦　（テトロンの研究）　---------- コンパ係

最後に南の台所に行ってみよう。ガーという雑音の中で3人の子供がしきりに紡糸機を分解しておる。なかなかよく働く子供達である。他に2人の研修生と北尾先生が生活しておる。ここにいるものはいつも oil のべっとりついた作業服を着ていて、さも実験しているかのように見える。特に今はポリエチ、ポリプロの紡糸と延伸を行ない、その物性を調べている。

坂上充芳　（ポリエチ、ポリプロの紡糸と物性）----雑誌会係
興　健一　（　　〃　　）----器具係
矢野賀彦　（　　〃　　）----班　長

"あまり働くと体に毒だよ" と言おうとしたが、もういない、おお！そう

よ、ずつと南で中国語を学んでいるんだろう。まあこんなところが相宅研といつたもんだ。

どこでもやっているようだが、毎週土曜日に雑誌会というものがあって、外国の文献を翻訳し、理解し、発表しておる。まだ始めだから、あまり口につかないが、英、米の化学の進歩がよく分って、我々にも参考になる所が多い。また不定期にあみだ会があり、一くじ10～50円であみだをする。日ごろの行ないが良いと神のめぐみか安く当ることが多い。お茶とお菓子で話し合う会で、そこでは日ごろの実験とか、先輩の至験とか、レクレーションとかについて、先生共々なごやかに話しあう。その中で、実験のテーマ、あるいはヒントなどを見つけることが多い。また最近、独語ならず、ロシア語の勉強がさかんとなつた、やたら舌をかむようなしやべり方をしているが、やはり人気のあるのは中国語である。

何といつても実験するには体が一番というわけで、先生自らスポーツを奨励している。野球、テニス、バトミントン、卓球、はてはサンカーボールまで一そろいずらりとある。昼休みとなると、先生方は野球、テニスに、子供達はラグビー、サツカーに、グランドいっぱいにとびまわる。ひと汗かいて実験すれば、身も心も爽快で、一段と真剣さが増してくる。

編集後記

これからはますます暑くなるし、それぞれ適当な方法をみつけて過したいものである。木陰に入っても汗は乾かないというのだから…… 繊維展も皆んな夢中になってやったようであるが、そろそろ完全に繊維展ぼけから抜け切ってしまいたい。そうこうする内に間もなく夏休みである。

今回は久方振りに先輩からの寄稿があり、それぞれよい参考になることと思います。大学時代に授業で学ぶこと以外のものを一つでもいいから身につけたい。というのがあったが、お前は四年間で一体何をしたのかと問われたら何と答えたらよかろうか。……

Chain No.16

発行日　昭和38年6月

発行者　京都工芸繊維大学繊維化学科

印　刷　北斗プリント社

編　集　繊維化学科 Chain 編集部

編集代表　金井政洋